

◆ 東京都知事賞 ◆

「あなたの税金は誰かの救世主」

品川区立富士見台中学校 9年 竹下 佳澄

「税金」というワードを聞いて、私には良い印象がなかった。私はまだ中学生だから、身近にある税は消費税だけでピンと来ない。世間の大人たちが「税金が高すぎる」と税を悪者のように話している様子から、そんなにも面倒くさい存在なのかと思っていた。しかし、ある出来事をきっかけに、私の目に映る税のイメージは一変した。

私は昨年、『若年性突発性脊椎側弯症』という脊椎が左右に曲がる症状を治すため大きな手術をした。最初は少しの歪みだったため経過観察だったが、数年後には手術対象の角度まで進行してしまい、大学病院を紹介してもらうことになった。その時私は、初めて「手術」という現実味を帯びた言葉に直面し、不安と恐怖で頭が真っ白になっていた。

医師から、「手術をしないでコルセットをつける選択肢もあるけれど、角度が進行しないとは言い切れない。今後進行すると、大人になってから腰痛で苦しんだり、骨が肺を圧迫して呼吸機能障害になったりする可能性もある。」と説明され、将来のことを考えた私は、手術することを決意した。

大きな手術をするということは多くの費用がかかり、ほとんどは健康保険から支払われるが、自己負担分も高額になると身構えていた。そして私は思い切って母に聞いてみた。

「検査とか手術にかかる医療費、高いんじゃないの？大丈夫？」

「子どもの医療費は区が払ってくれるんだよ。心配しないで。」

税金が医療費を負担してくれていたことに少し驚いた。調べてみると、私が住んでいる品川区では『子どもすこやか医療費助成』という高校生までの子どもが医療機関で診療を受けた時、保険診療の自己負担分を区が助成してくれる制度がある。だから、本当なら四百万円かかった私の医療費は、健康保険とこの税金の助成を合わせて0円になった。税金に私は助けられたのだ。税金は払うイメージが浸透しているけれど、その税金によって私のように大きく助けられている人がいること、身近な当たり前が税金によって支えられていることを身をもって実感した。

最近日本社会の物価上昇に伴い、税に対する批判的な意見をよく耳にするが、これは払う立場から見た意見であり、実際にサービスを受ける立場に立って見ていない。税に限らず、悪いところに目がいってしまうのは仕方のないことだが、税金に支えられて私たちが生活できている事実を忘れてはいけない。そして、あなたが払った税金は誰かの救世主になり、誰かが払った税金はあなたの救世主になるかもしれない。この世界は人の支え合いで創られているのだ。

税金は私たちが笑顔で暮らせる社会を創っていく手立てだということを胸に、これからも税と共に歩んでいきたい。